

第12回 プラチナ大賞

報告書



2025年1月

プラチナ大賞運営委員会

はじめに

「プラチナ大賞」は、イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などにより社会や地域の課題を解決し、「プラチナ社会」の姿を体現している、または体現しようとしている全国の自治体や企業などの取り組みを賞という形で称え、これらを「プラチナ社会」のモデルとして広く社会に発信することを通じて、「プラチナ社会」の実現に向けたビジョンや具体的なアクションの理解・浸透を図るものです。2013年に第1回が開催され、今年度で第12回を迎えました。

「第12回プラチナ大賞」では、会員団体から44件の応募が寄せられ、第一次審査会において12件の取り組みが最終審査会発表団体に出選されました。選出された取り組みについては、2024年11月6日に時事通信ホールにて開催された「第12回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式」において最終プレゼンテーションを行っていただきました。厳正なる最終審査の結果、株式会社フランウッドの「森林基幹道とフランウッドによるProfitable & Sustainableな森林業－森林基幹道というインフラ投資とフランウッド（木材高付加価値化技術）と森林経営管理責任を持つ地方自治体と共同の取り組み－」が「大賞・総務大臣賞」を、大分県の「デジタル革命～おんせん県おおいたのDXへの挑戦～」が「大賞・経済産業大臣賞」を受賞し、他10件の取り組みが優秀賞を受賞しました。

開催に当たってはご後援団体、当法人会員団体並びに多くのご関係者の皆様にご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。また、ご応募いただきました各団体の皆様には、日頃の熱意とご努力に改めて敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

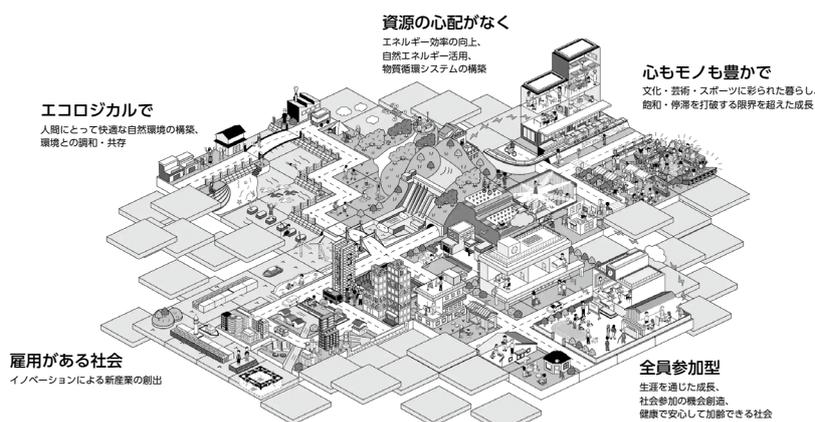
本書は、「第12回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式」の内容を中心にまとめました。本書が皆様にとって「プラチナ社会」実現への更なるご理解の深化、あるいは今後の当法人の活動へのご参画や今後の「プラチナ大賞」へのご応募の契機となれば幸甚です。

今後とも、当法人の活動に対するますますのご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

プラチナ大賞運営委員会事務局
(一般社団法人プラチナ構想ネットワーク事務局)

プラチナ社会とは

一般社団法人プラチナ構想ネットワークは、「地球が持続し、豊かですべての人の自己実現を可能にする社会」を「プラチナ社会」と定義し、その実現を目指しています。プラチナ社会を実現することで、「課題先進国」であるわが国の先例のない課題を解決していきます。



目 次

はじめに・プラチナ社会とは	1
目次	2
第12回プラチナ大賞 概要	3
実施体制	3
各賞・副賞（津軽金山焼の特製トロフィー）について	4
プラチナシティ認定制度	5
最終審査発表会・表彰式 プログラム概要・フォトレポート	6
挨拶	9
開会挨拶	9
運営委員長挨拶	10
来賓御挨拶	11
審査結果	13
最終審査進出団体の取り組み概要	18
奨励賞受賞団体一覧	31
特別講演	32
審査委員長講評	33
閉会挨拶	34
資料編	35
これまでのあゆみ	35
主なメディアの掲載	38

第12回プラチナ大賞 概要

実施体制

- [主 催] 一般社団法人プラチナ構想ネットワーク（会長：小宮山 宏）
プラチナ大賞運営委員会（委員長：増田 寛也）
- [後 援] 総務省、経済産業省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、特別区長会、
株式会社時事通信社
- [事務局] プラチナ大賞運営委員会事務局（一般社団法人プラチナ構想ネットワーク事務局）

運営委員会

委員長	増田 寛也	日本郵政株式会社 取締役兼代表執行役社長
副委員長	秋山 弘子	東京大学 名誉教授、東京大学未来ビジョン研究センター 客員教授
委員	鈴木 康友	静岡県知事
委員	平石 和昭	一般社団法人プラチナ構想ネットワーク事務局長

審査委員会

委員長	武内 和彦	公益財団法人地球環境戦略研究機関 理事長
副委員長	秋山 弘子	東京大学名誉 教授、東京大学未来ビジョン研究センター 客員教授
委員	石戸奈々子	一般社団法人超教育協会 理事長、慶應義塾大学 教授
委員	岸本 一郎	株式会社エフシージー総合研究所代表取締役 社長
委員	小林 伸年	株式会社時事通信社解説委員、日本記者クラブ企画委員
委員	西條 都夫	株式会社日本経済新聞社 上級論説委員兼編集委員
委員	田中 里沙	事業構想大学院大学 学長
委員	西村 幸夫	國學院大學観光まちづくり学部 学部長
委員	増田 寛也	日本郵政株式会社 取締役兼代表執行役社長
委員	山田メユミ	株式会社アイスタイル 取締役、一般社団法人バンクフォースマイルズ 代表理事

（敬称略、50音順）

第12回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式

日 時 2024年11月6日（水）13：00～17：20

会 場 時事通信ホール（東京都中央区銀座5丁目15-8 時事通信ビル2F）

各 賞

「プラチナ社会」のモデルの体現、実現（可能性含む）という観点において応募取り組みの中で最も優れた取り組みを「大賞」として表彰するほか、以下の各表彰を行います。

大賞・総務大臣賞	「プラチナ社会」実現の観点に鑑み、地域において特色ある、また新たな価値を生み出すようなコミュニティの活性化や社会システムの構築などに顕著な成果のあった、または見込まれる先進的な取り組みを表彰します。
大賞・経済産業大臣賞	「プラチナ社会」実現の観点に鑑み、地方自治体とのパートナーシップにより、社会の課題を解決する革新的なビジネスモデルを提示し、商工業の発展や雇用創出に顕著な成果のあった、または見込まれる先進的な取り組みを表彰します。
優秀賞	「プラチナ社会」の構成要素である分野等において、優秀、または突出していると評価された取り組みを表彰します。
プラチナチャレンジング賞	先進的・革新的なアイデア、技術及び仕組みをもって「プラチナ社会」を加速させる可能性があり、期待できるモデルと評価された取り組みを表彰します。
奨励賞 (小宮山宏選定)	「プラチナ社会」を体現するモデルとして、期待できる取り組みを表彰します。

※大賞（総務大臣賞・経済産業大臣賞）・優秀賞・プラチナチャレンジング賞は、プラチナ大賞審査委員会が選定します。奨励賞は、当会会長である小宮山宏が選定します。

副賞（津軽金山焼の特製トロフィー）について

各賞受賞団体には、表彰状のほか副賞として津軽金山焼の特製のトロフィーを贈呈しました。



大賞



優秀賞

津軽金山焼は、プラチナ構想ネットワークの特別会員である松宮亮二氏が1985年に青森県五所川原市に立ち上げた窯で、高温で焼きあげる「焼締」の手法による、深みのある独特の風合いで知られています。

松宮氏は地域に根差した陶芸産業として金山焼を一から育ててきたと同時に、国内そして海外からも多くの陶芸家の研修生を招き、世代や地域を超えた陶工の育成と、人材・カルチャーの交流を通じた文化芸術面での地域貢献を行っているほか、最近ではやきものを通じた被災地の復興支援活動にも積極的に取り組んでいます。こうした津軽金山焼の取り組みがプラチナ社会の目指す理念に相通じることから、特別に副賞を制作いただきました。

プラチナシティ認定制度

- 自治体首長会員が大賞または優秀賞を受賞した場合、当該自治体を「プラチナシティ」として認定します。
- 2024年11月現在、95の自治体がプラチナシティとして認定されています。
- 今年度は、新たに3自治体が認定されました（下図、下線自治体）。



プラチナシティ認定バッジ



プラチナシティ

近畿

- 【京都府】 京都府
- 【兵庫県】 洲本市、豊岡市、養父市
- 【奈良県】 下市町
- 【和歌山県】 和歌山県、有田市、有田川町

北海道・東北

- 【北海道】 岩見沢市、ニセコ町、上士幌町、更別村
- 【青森県】 青森県
- 【岩手県】 岩手県、一関市
- 【宮城県】 東松島市、富谷市
- 【秋田県】 大館市

中国・四国

- 【鳥取県】 八頭町、琴浦町
- 【島根県】 雲南市、海士町
- 【岡山県】 津山市
- 【山口県】 美祢市
- 【徳島県】 上勝町
- 【香川県】 香川県
- 【高知県】 高知県、高知市、越知町、黒潮町

関東

- 【茨城県】 常総市、取手市
- 【埼玉県】 埼玉県、さいたま市、行田市、戸田市
- 【千葉県】 柏市、流山市
- 【東京都】 荒川区、町田市
- 【神奈川県】 神奈川県、横浜市、川崎市、鎌倉市

計 95 自治体 (新規 3 自治体)

中部

- 【新潟県】 新潟県、見附市
- 【富山県】 富山市
- 【石川県】 珠洲市
- 【福井県】 高浜町
- 【長野県】 長野県、長野市、松本市、上田市、岡谷市、飯田市、諏訪市、須坂市、小諸市、伊那市、駒ヶ根市、中野市、大町市、飯山市、茅野市、塩尻市、佐久市、千曲市、東御市、安曇野市、小海町、軽井沢町、御代田町、木祖村、白馬村、小谷村、坂城町、野沢温泉村
- 【岐阜県】 岐阜市
- 【静岡県】 浜松市
- 【愛知県】 岡崎市、豊田市、高浜市

九州・沖縄

- 【福岡県】 北九州市、みやま市、久山町
- 【長崎県】 壱岐市、佐々町
- 【熊本県】 熊本県
- 【大分県】 大分県
- 【宮崎県】 都城市、小林市
- 【鹿児島県】 西之表市、中種子町、南種子町
- 【沖縄県】 久米島町

最終審査発表会・表彰式 プログラム概要・フォトレポート

13:00 ~ 13:20

開会

●開会挨拶

一般社団法人プラチナ構想ネットワーク
会長 小宮山 宏

●運営委員長挨拶

プラチナ大賞運営委員長 増田 寛也

●審査委員紹介

13:20 ~ 14:56

最終審査発表会

全12件プレゼンテーション

15:10 ~ 15:50

特別講演

一般財団法人100万人のクラシックライブによる演奏会

プラチナチャレンジング賞 受賞団体による
取り組み発表

16:15 ~ 17:20

審査結果発表・表彰式・閉会

●審査結果発表

●来賓挨拶

経済産業副大臣
岩田 和親 様
総務省大臣官房官房総括審議官(情報通信担当)
玉田 康人 様

●審査講評

プラチナ大賞審査委員長 武内 和彦

●閉会挨拶

一般社団法人プラチナ構想ネットワーク
副会長 岩沙 弘道

開会挨拶



小宮山会長



増田運営委員長



最終審査発表会



特別講演



100万人のクラシックライブ
による演奏会



大日本印刷株式会社
教育ビジネス本部
宮崎 亮 様



江津市長
中村 中 様

最終審査会



来賓挨拶



岩田 和親 様



玉田 康人 様

審査講評・閉会挨拶



武内審査委員長



岩沙副会長



チャレンジング賞 トロフィー

最終審査発表会



大分県 商工観光労働部 部長
利光 秀方 様



株式会社くまもとKDSグループ 代表取締役
永田 佳子 様



香川県 商工労働部 部長
寺嶋 賢治 様



株式会社フランウッド 代表取締役社長
高橋 ひかり 様

津山市長
谷口 圭三 様



佐久市長
柳田 清二 様



小諸市長
小泉 俊博 様

一般社団法人ディバースライン 代表
天野 紗智 様



株式会社教育と探求社 代表取締役
宮地 勤司 様



三菱ガス化学株式会社 取締役 常務執行役員
赤瀬 英昭 様



東京製鐵株式会社 取締役社長
奈良 暢明 様



国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構 理事
鈴木 孝子 様



東北ライフサイエンス・インストルメンツ・
クラスター 代表幹事
片野 圭二 様



ミーツ株式会社 代表取締役
成田 智哉 様

表彰式の様子



集合写真



懇親会の様子



挨拶

開会挨拶

一般社団法人プラチナ構想ネットワーク 会長
小宮山 宏



本日、第12回プラチナ大賞にお集まりいただいている皆様は、すでに受賞された方々でございます。誠にありがとうございます。

プラチナ大賞は毎年レベルが上がっており、「なぜうちは落ちたのか」と後から聞かれて困ることがありますが、取り組みの内容がどんどん良くなっていくのは何よりでございます。今年も審査員の皆様、よろしくお願ひ申し上げます。

皆さんにとっては表彰されることとなりますが、我々にとってプラチナ大賞は、活動にとって非常に重要な情報となります。

こちらのスライドは、「星雲の図」と言ひまして、これまでに受賞した取り組みの内容が書いてありますが、カテゴリーが近いものはまとめて表記しています。こうしてみると、健康・自立や環境・エネルギー、森林・一次産業、観光・エンタメ、人財・文化など、ある程度、取り組み内容が塊として浮かび上がってきます。この星雲の図は、皆様がプラチナ社会とはどのような社会と考えているかが理解できる重要な情報となるわけです。

もちろん星雲の図には、プラチナ大賞に応募いただいた取り組みだけでなく、それ以外の活動も含まれていますが、こうして「誰が、何を、どこでやっているのか」の情報が集まっているのが、プラチナ構想ネットワークの最大の財産だと自負しております。

プラチナ大賞は我々と皆様にとってプラチナ社会への「道しるべ」だと思っております。ですので、本日の発表を心から楽しみにしております。よろしくお願ひ申し上げます。



映像は、プラチナ TV (YouTube チャンネル) より、ご覧いただけます。

運営委員長挨拶

プラチナ大賞運営委員長

増田 寛也



運営委員長を仰せつかっております増田でございます。今回が12回目とすることになります。今年の応募は全体で44件でしたが、事務局の方でこれまでのプラチナ大賞のすべての数を数えていただきましたところ、今年を含めて696件。プラチナ大賞が始まり、約700件の粒揃いの取り組みが集まったということでございます。先程会長がお示しになった図にありまして、分野も非常にバランスが取れておりますので、プラチナ社会の考え方が広がってきているのではないかと考えております。

そして、今年の44件のレベルは非常に高いものでした。審査員は苦勞しながら、落とすことは大変忍びないと思いながら12件に絞りまして、本日最終発表していただくということでございます。44件のうち、民間企業を中心とするものが22件、自治体が17、個人が5だったかと思いますが、その応募自体も非常にバランスが取れていると思いますし、優秀賞の12件もバランス的にも、内容的にも極めて優れているものでございますので、これからの審査を大変楽しみにしております。

今年からの新しい試みとして、プラチナチャレンジング賞を設けました。優秀賞の12件の中から2つ大臣賞を選びますが、その12件に勝るとも劣らないものを2つ選びまして、これは既に選定が終わっておりますので、この後、発表があるとお聞きしております。ぜひその2つについても、これからの将来性を楽しみにしながらお聞きをいただければと思っております。

以上、プラチナ大賞の概略、これまでの変遷を申し上げたところでございますが、こうした賞に応募をいただきました多くの皆様方に感謝を申し上げたいと思います。どうぞこれからもよろしく願い申し上げます。



映像は、プラチナ TV (YouTube チャンネル) より、ご覧いただけます。

来賓御挨拶

経済産業副大臣

岩田 和親 様



経済産業副大臣の岩田でございます。本日は、第12回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式が開催されますことを、お慶び申し上げます。小宮山会長、増田運営委員長、武内審査委員長をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

プラチナ大賞のはじまりは、2013年に遡ります。政府が地方創生の取組を本格的に始めたのが、10年前。それに先駆けて、イノベーションによる新産業の創出等を通じ、地域や社会の課題を解決する取組を称える賞として創設されました。

地域の多様なステークホルダーが知恵を出し合い、地域の可能性を最大限に引き出し、すべての人に安心と安全を保障し、幸せを実感する社会。この地方創生の精神を先取りする取組として、これまでも、多くの優れた取組に光を当て、広く社会に発信してこられました。

本日、最終審査に進出された取組は、ダイバーシティやデジタル、バイオ、サーキュラーエコノミーといった、地域の課題解決に向けた多様で魅力的なアイデアと実践が見て取れます。皆様の創意工夫に深い敬意を表しますとともに、その成果が全国に波及し、他の地域や企業にも良い影響を与えることを心より期待しております。

近年では、こうした社会課題の解決と経済成長の両立を目指す事業の在り方を、白と黒の縞模様になぞらえて、また、内外の関係者と協力しながら取組を進めるさまを群れで行動するシマウマに例えて、「ゼブラ企業」と呼んで注目を集めています。経済産業省は、今年3月に「ゼブラ企業」を創出するためのビジネス上のポイントをまとめた基本指針を打ち出しました。「ゼブラ企業」が創出する社会的インパクトに対して、共感による資金や人材の流れを地域内外に作り出すことが、持続可能な地域を実現していく上でも重要です。引き続き、ゼブラ企業が創出されるエコシステムが各地で構築されていくよう取り組んでまいります。

GXやDXなどの社会課題を解決する分野は、いまや成長のエンジンです。引き続き、各地域の企業および自治体の皆様と連携し、持続可能な発展を共に実現していけることを心より願っております。

結びに、最終審査に進出されたすべての団体の皆様、この場にご臨席賜りましたご関係者の皆様に対し、これからも地域社会の発展に向けた素晴らしい取り組みを続けていただけることを期待しつつ、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



映像は、プラチナ TV (YouTube チャンネル) より、ご覧いただけます。

来賓御挨拶

総務省 大臣官房 官房総括審議官(情報通信担当)

玉田 康人 様



総務省大臣官房総括審議官の玉田でございます。小宮山会長をはじめ、関係者の皆様のご尽力により、プラチナ大賞表彰式が第12回を迎えますことを、心よりお祝い申し上げます。

我が国は、人口減少、少子高齢化など、様々な課題に直面しており、それらに対応できるような持続可能な地域社会の形成が求められております。

地域の皆様におかれましては、これらの課題と向き合い、日々ご尽力いただいていることと思います。この場をお借りして敬意を表したいと思います。

プラチナ大賞は、様々な課題に直面する「課題先進国」である我が国にとって、革新的なアイデアを喚起し、健康で心豊かな暮らしや、イノベーションによる新産業の創出に貢献するものです。

本日のプラチナ大賞の表彰を通じて、好事例が広く全国に知れわたることにより各地で様々な取組が積極的に行われ、持続可能な、豊かで、地域の方々の自己実現を可能にする社会が実現されることを期待しております。

石破内閣では、「地方創生」が最重要政策の一つであり、総務省としても、デジタル技術の活用による持続可能な地域社会の実現に向け、デジタル技術を活用した地方創生の好事例創出やその横展開に加え、地域DXを支える光ファイバや5G等の通信インフラの整備等に取り組んでまいります。

これらの取組では、各地方自治体や民間企業の皆様との連携が不可欠ですので引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

最後に、「プラチナ構想ネットワーク」の一層のご発展と、本日お集まりの皆様の益々のご活躍を祈念して、私からの挨拶とさせていただきます。



映像は、プラチナTV (YouTubeチャンネル) より、ご覧いただけます。

審査結果

2024年11月6日、最終審査発表会に進出した12件の取り組みについて各団体によるプレゼンテーションが行われ、その後の最終審査会において各受賞団体が決定しました。

発表の映像は、プラチナTV（YouTubeチャンネル）より、ご覧いただけます。

大賞・総務大臣賞

団体名 株式会社フランウッド、津山市

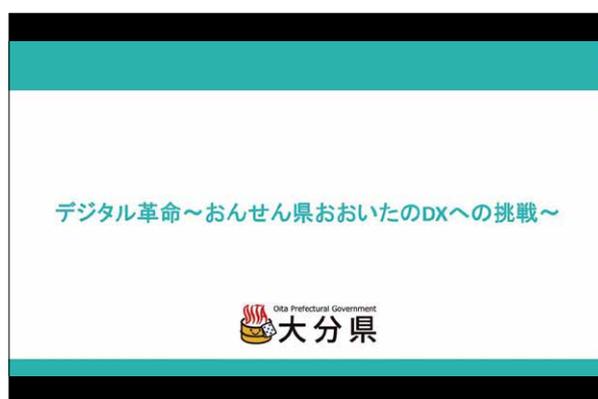
取り組み名 森林基幹道とフランウッドによるProfitable&Sustainableな森林業
 ー森林基幹道というインフラ投資とフランウッド（木材高付加価値化技術）と森林経営管理責任を持つ地方自治体と共同の取り組みー



大賞・経済産業大臣賞

団体名 大分県

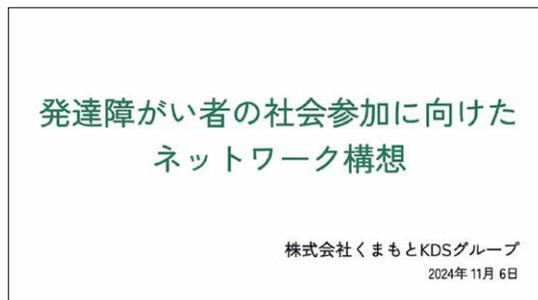
取り組み名 デジタル革命 ～おんせん県おおいたのDXへの挑戦～



優秀賞・インクルーシブ賞

団体名 株式会社くまもとKDSグループ、株式会社KDSコミュニティカレッジ、株式会社KDS熊本ドライビングスクール

取り組み名 発達障がい者の社会参加に向けたネットワーク構想



優秀賞・立地競争力向上賞

団体名 香川県

取り組み名 せとうち企業誘致100プラン
～きめ細かなワンストップサービスによる戦略的企業誘致の推進～



優秀賞・女性活躍促進賞

団体名 佐久市（長野県）

取り組み名 「女性活躍」が当たり前の世界にキャッチアップ！佐久市の女性活躍推進パッケージ



優秀賞・新しい時代の森林活用賞

団体名 小諸市（長野県）、一般社団法人ディバースライン

取り組み名 ウエルネスシティ信州小諸 Project-with MORIBITO
～森林環境も社会課題も担い手も多様性の組合せで～



優秀賞・次世代育成賞

団体名 株式会社教育と探求社

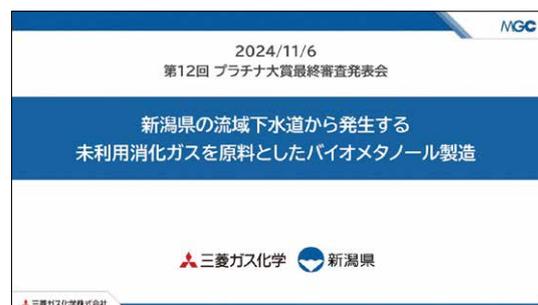
取り組み名 現実社会を題材にした探究学習プログラム「クエストエデュケーション」の学校展開



優秀賞・グリーン技術革新賞

団体名 三菱ガス化学株式会社、新潟県

取り組み名 新潟県の流域下水道から発生する未利用消化ガスを原料としたバイオメタノール製造



優秀賞・アップサイクル賞

団体名 東京製鐵株式会社

取り組み名 「壊したビルから、クルマを造る。」～広がる、鉄スクラップ活用の可能性～



優秀賞・先人の知恵活用賞

団体名 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

取り組み名 水田からのメタン削減技術「中干し延長」を社会で実現する取り組み：従来の農法を少しアップデートした導入し易い技術を確認し、クレジット制度の方法論化で普及を推進



優秀賞・医工連携促進賞

団体名 岩手県、東北ライフサイエンス・インストルメンツ・クラスター

取り組み名 東北地域のものでづくり技術と医学的インテリジェンスの融合による、ライフサイエンス機器創出拠点の形成



優秀賞・全員参加の地域づくり賞

団体名 ミーツ株式会社

取り組み名 Meets Community

～地域での困りごとをみんなで解決。お手伝いからコミュニティに、そしてまちづくりへ。～



最終審査進出団体の取り組み概要



各団体の発表資料は、一般社団法人プラチナ構想ネットワークのホームページ上に掲載しています。
当日の発表の映像は、プラチナTV（YouTubeチャンネル）より、ご覧いただけます。

大賞・総務大臣賞

森林基幹道とフランウッドによる Profitable & Sustainable な森林業

ー森林基幹道というインフラ投資とフランウッド(木材高付加価値化技術)と森林経営管理責任を持つ地方自治体と共同の取り組みー



株式会社フランウッド、津山市

発表者

株式会社フランウッド 代表取締役社長 高橋 ひかり 様
津山市長 谷口 圭三 様



取り組み概要

高付加価値木材ベンチャーと自治体で共同で取り組む、 世界初の「Profitable & Sustainableな森林業」モデル



現在、域内森林経営管理は、市町村が担っているが、木材価格の低迷により森林収益は赤字となり、税金の投入無くして経営自体が成り立たない。本取り組みは、日本の林業・木材史上初、世界市場に挑戦可能な高付加価値商材を生み出したフランウッドと津山市が共同で、自立し収益性が高く、持続可能な森林経営モデルの実証である。

【フランウッド】

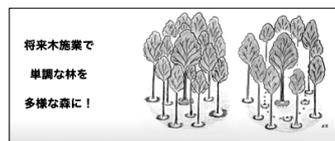
当社が京都府立大学と共同で開発したフランウッドは日本固有種のスギ、ヒノキを世界で最高の高耐久ハードウッドにする特許技術である。自然の美しさを損なわない改質木材。ノーメンテナンスでウッドデッキでは30年以上、補修によりさらに100年の利用を目指す長期循環型木材。市場と材価を失ったスギとヒノキにとって、新しく巨大で高価格で取引される世界市場が開けた。フランウッドのこうした商品力と高値安定市場を背景に、丸太を従来の2-3倍の価格で買い続けることが可能となる。



【〈森林基幹道〉と〈将来木選別間伐施業〉型の森林経営モデル】

当社は、本取組で津山市阿波地区の市有林約200haを津山市から経営管理受託し、[森林基幹道]と[将来木選別間伐施業]により、従来の10倍程度の森林収益（丸太の売上-伐採運搬コスト）を上げつつ、豊かで持続可能な森林を育てるビジネスモデルを計画している。

森林基幹道は、欧州「屋根型森林基幹道」をモデルとし、超長期での恒続的な森づくりと持続的な木材生産を可能とする。森林の中腹と尾根を中心に大型トラックが通行できる道を這わせ、チェーンソーで伐採した木材はワイヤー系集材技術で基幹道まで引き上げる。基幹道のための初期のインフラ投資のみで、従来の素材生産コストを大幅に下げることが可能である。その森林に、超長期将来木選別間伐施業・非皆伐更新を行うことで、ムラのある伐採によるランダムな光と豊かな土壌により多様な植生を育む。



大賞・経済産業大臣賞

デジタル革命

～おんせん県おおいたの DX への挑戦～



大分県

発表者 商工観光労働部 部長 利光 秀方 様



取り組み概要

【大分県のDXの目指すもの】

本県がDXを進めるにあたっては、デザイン思考でユーザーの声をしっかり聞き、ユーザー目線で将来どうありたいのかというビジョン（ありたい姿）を描き、DX（D:データとデジタルの活用、X:行政サービスや施策、組織文化・風土の変革）を進めています。



大分県DX推進戦略

【取組内容】

①アナログ規制の見直し

県の条例や規則、要領等のアナログを前提とした条項をリストアップし、条項ごとに改正の必要性を検討しました。リストアップされた条項数は974件にのぼります。令和6年3月には、全国の都道府県で初めてアナログ規制の見直しに係る一括条例を成立させました。

②行政手続のデジタル化

公共施設の使用申し込みや法令等に定められた許可申請など、県への申請手続のデジタル化に全国でも先進的に取り組んでいます。令和6年度末までに3,343ある行政手続を100%デジタル化する計画です。いつでも、どこからでも手続の申請ができるよう、行政サービスの利便性向上を目指します。あわせて、施設の使用料や手数料等をキャッシュレスで納付できるよう、庁舎の窓口にキャッシュレス端末の導入を進めており、令和6年度末までで103カ所に設置する計画です。

また、住民に身近な市町村の行政手続についても、主要な手続のデジタル化やキャッシュレス対応について令和7年度を共同目標として設定し、取組を後押ししています。

③要介護認定業務のデジタル化

現在、要介護認定業務は、主に紙の書類を作成して関係者と対面で行われており、認定申請から結果通知まで時間を要するものとなっています。そこで、全国に先駆けて、要介護認定に関する一連の業務を全てデジタル化するモデル事業に県内でも申請件数が多い大分市・別府市と共同で挑戦します。この取組により、介護サービスを受けたい申請者が、より早く適切な介護サービスの提供を受けられるようになります。

優秀賞・インクルーシブ賞

発達障がい者の社会参加に向けたネットワーク構想



株式会社くまもと KDS グループ、株式会社 KDS コミュニティカレッジ、株式会社 KDS 熊本ドライビングスクール



発表者 株式会社くまもと KDS グループ 代表取締役 永田 佳子 様

取り組み概要

1.目的 (解決を目指す社会課題)

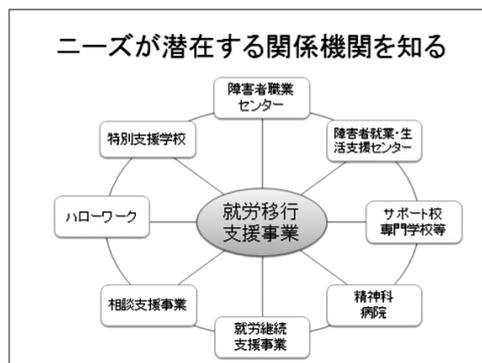
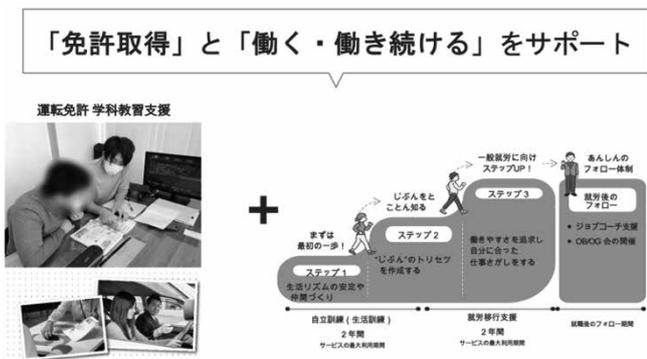
近年、「発達障がい (グレーゾーン)」と診断され、学習面または行動面で著しい困難を示す子どもの割合が増加傾向にあることが明らかになっている。また、発達障がい者の社会参加を拡充するうえで、自動車での移動は重要な生活手段であり、「自立」や「就労」に向けても大きなファクターになっており、自動車教習所が求められる役割の1つである。

自動車教習所以外にも教育現場や医療、福祉、自治体そして企業等の現場それぞれで支援の取り組みは行われ、役割を果たしているが、各現場を繋ぐ横串的な連携機能が不足している状況が見られることから、切れ目のない連携が障がい者の自立には必須である。

そのためにも、教育、医療、福祉機関との連携や、公共職業安定所や障がい者就労支援センターなどとのネットワークを拡充し、様々なサポートを切れ目なく面として展開することで、発達障がい者の社会参加の役割を果たしていく必要がある。

2.手段 (具体的内容)

- 自動車教習所で発達障がいの方に特化した運転免許取得のための支援を実施。
(運転免許 つばさプラン:鹿沼自動車教習所登録商標)
- 自動車教習所が全国で初めて福祉サービス事業所を立ち上げ、発達障がいの方の「自立」に向けたサポートを行う生活訓練、「働く・働き続ける」ための支援を行う就労移行支援の2つのサービスをスタートする。
- さらに自動車教習所と福祉サービス事業所の両者が連携して、「運転免許取得のサポート」と「働く・働き続ける (自立)」ための支援を実施している。



出典：厚生労働省「就労支援ハンドブック」

優秀賞・立地競争力向上賞

せとうち企業誘致 100 プラン ～きめ細かなワンストップサービスによる 戦略的企業誘致の推進～



香川県

発表者 商工労働部 部長 寺嶋 賢治 様



取り組み概要

香川県では、令和4年度の池田知事の就任に合わせて、企業誘致のためのアクションプラン「せとうち企業誘致100プラン」を策定し、戦略的な企業誘致を進めています。

その取り組みにおいては、1万件を超える企業に企業立地アンケート調査を実施し、立地ニーズの把握に努めるとともに、首都圏でのトップセールスの実施、社会経済情勢に即応した優遇制度の見直し、ワンストップサービスの充実等を図っています。また、重点的な誘致に取り組む産業として、製造業・物流業に加え、若者にとって魅力のある情報通信関連産業や、近年大きく注目されている生成AIを活用した産業やデータセンターの立地、カーボンニュートラルの実現に向けた拠点の立地が進むような施策にも取り組んでいます。

【せとうち企業誘致100プランに掲げる5つの取組み】

第1の柱 企業誘致の基盤となる用地の確保

○民間資本の活用による工業団地整備を後押しするとともに、県と市町が連携し、地元調整と企業誘致活動に
取り組み、経済の好循環と企業立地を双方向で実現

○2030年水素サプライチェーン構築と運用開始に向け基盤整備実現可能性調査の実施

第2の柱 本県の立地企業の活動を支える交通・物流拠点網・インフラの充実

○広域道路ネットワークや産業拠点を相互に連絡するアクセス道路の整備や機能強化

第3の柱 企業ニーズに沿った人材確保の支援

○県運営の就職支援サイト「ワクサポかがわ」と、大学や専門学校などの教育機関と連携した立地企業が求める人材確保の支援

第4の柱 本件独自の企業誘致助成制度や税制優遇等による支援

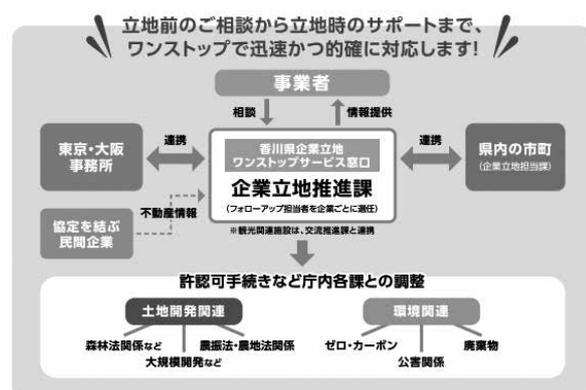
○他に類を見ない民間の開発業者に対する工業団地の整備費支援など、時代の要請と企業ニーズに応じて本県独自の企業誘致助成制度や税制優遇制度等による立地支援

○全国初となるデータセンターの立地に対する電力料金50%の助成制度の創設

第5の柱 各種技術支援・ワンストップサービスの一層の充実

○立地企業に対する製品・技術開発及び販路開拓や経営に関するサポートの実施

○立地にあたっての地元調整と各種行政手続きのワンストップサービスの充実



【せとうち企業誘致100プラン策定後の実績】

本プランの推進により、企業立地件数は、大幅に増加。

●令和5年度の企業立地件数は、過去最多の56件

●そのうち、情報通信企業の開設が過去最多の9件

【企業立地件数の推移】

年度	R2	R3	R4	R5
立地件数	15件	37件	48件	56件

優秀賞・女性活躍促進賞

「女性活躍」が当たり前の世界にキャッチアップ！ 佐久市の女性活躍推進パッケージ



佐久市（長野県）

発表者 佐久市長 柳田 清二 様



取り組み概要

昨今の人口減少・超高齢社会においては、生産年齢人口の減少や地域の担い手不足が深刻な課題となっている。その対応策の1つとして、社会のあらゆる分野で女性の活躍が期待されているところであるが、これまでの社会においては、依然として女性はその個性と能力を十分に発揮し、活躍しているとは言い難い状況にあった。

そこで、本市では、次の3つの女性活躍に係る取組をパッケージ化し、女性が社会のあらゆる分野で活躍できるまちづくりに取り組んでいる。

✓ 佐久市の未来を創る「女性」の活躍を支援する各種施策

（1）佐久平女性大学運営事業（R4〜）

ココがポイント

「自分らしく生きる」をみつける！

➤ 男女共同参画社会実現のため、佐久市独自の支援策として佐久市男女共同参画推進条例に位置付け、実践的なカリキュラムによるエンカレッジ教育（個々の目標達成に向けた寄り添った教育）により、「考える力」や「伝える力」を培い、ニューノーマルな時代に生涯成長、生涯就業力を持った女性を育成する。

- あらゆる分野での活躍
- 女性の社会進出
- 登用率の向上

（2）デジタル人材育成・就労支援事業「Cosmosta+」（R5〜）

ココがポイント

女性デジタル人材の育成が佐久市の社会変革のカギとなる！

➤ コロナ禍により場所や時間を選ばない柔軟な働き方が定着する中、今後も成長が見込まれるデジタル分野の人材育成・確保に着目し、育児や介護等の理由で離職した女性を主な対象として、「デジタルスキル習得・キャリア形成支援」と「就労支援」を掛け合わせ、女性の経済的自立のみならず、多様な働き方を実現するとともに、募集からリスキリング、就労へとつながるワンストップの流れを構築することで地方移住に関心がある人へも訴求する。

- 就業率の向上
- 正規雇用労働者の割合上昇
- 獲得賃金の上昇
- 多様な働き方の促進
- 移住定住の促進

（3）わたしたちのための月3万円ビジネス講座（R5〜）

ココがポイント

自分と社会を幸せにする小さな仕事で楽しく稼ぎ、まちに活力を！

➤ 自分の特技や趣味、子育て経験などを生かし、自分が本当にやりたいことで楽しく、小さく行う小さなビジネス（月3万円ビジネス/3ピズ）を広めるため、体験ワークショップや講座の開催、フォローアップ等を実施し、女性の活躍場面の創出やまちの活性化を図る。

- 多様な働き方の促進
- 子育てとの両立
- 地域の活性化

▶ 「女性活躍」という当たり前のあるべき世界にキャッチアップし、ジェンダーニュートラルを実現！

これらの3点の施策を通じて、女性が当たり前活躍できるジェンダーニュートラルな社会の実現を目指していく。

優秀賞・新しい時代の森林活用賞

ウエルネスシティ信州小諸 Project – with MORIBITO ～森林環境も社会課題も担い手も多様性の組合せで～



小諸市（長野県）、一般社団法人ディバースライン

発表者

小諸市長 小泉 俊博 様
一般社団法人ディバースライン 代表 天野 紗智 様



取り組み概要

ー昨年優秀賞（新しい時代のまちづくり賞）をいただいた「ウエルネスシティ信州小諸」では、本年から「小諸版ウエルネスシティ 第2章」を起動しました。

第2章では、全国的な課題に果敢にチャレンジをしています。

①人口の自然増への挑戦

第10回プラチナ大賞 優秀賞「ウエルネスシティ信州小諸 実現に向けたコンパクトシティの取り組み」により転入者が転出者を上回る転入超過・社会増289人（2023年）を達成し、持続的な人口・社会増となる取組みを継続して進めています。

第2章では、人口の自然増に向けて取り組むことを明確に示し、市民と様々な企業・団体とともに挑戦を始めました。

②脱炭素社会へ責任を果たす

小諸市では「小諸市気候非常事態宣言」を表明し、2050年の二酸化炭素排出量実質ゼロ（ゼロカーボンシティ）を目指した取組を推進してきました。環境省で実施する「脱炭素先行地域（第3回）」において、小諸市の計画提案が選定されるなど更なる実践に野心的に取り組んでいます。

この中で、森林環境ではこれまでの国や県の施策では取り組むことのできなかつた地域課題に正面から向き合い、小さい森林で小さい実践を通して大きな方向性を見出すことができました。

それが、**Project-with MORIBITO** の取組み

令和6年 森林環境税の課税が始まり森林環境譲与税の活用方法も注目が高まっている現状に、小諸市から他の地域に広がりうる一つの方向性を提示します。

大規模施業ができない小さな森林、でも個人（所有者）では大きすぎてあきらめている森林、これまでの地域の森林施業の担い手は大規模森林を担うだけで精一杯な状況

この地域課題に対して、小規模な森林を、新しいスタイル（施業・生活・担い手・仕事）で守っていく森林の守り人（MORIBITO）の取組み=自伐型林業による森林整備と、新たな担い手育成を通して、多様な社会課題を多様な発想で解決を図ろうとする取組が小諸版ウエルネスシティとの理念と合致して小諸市で実践されたプロジェクト

持続可能な森林づくりを目指す「自伐型林業」を実践して

アスリートのセカンドキャリア課題解決に

若い世代の移住が加わり

地域の団体有林が動き出したストーリー

優秀賞・次世代育成賞

現実社会を題材にした探究学習プログラム「クエストエデュケーション」の学校展開



株式会社教育と探求社

発表者 株式会社教育と探求社 代表取締役 宮地 勸司 様



取り組み概要

「クエストエデュケーション」という探求型の学習プログラムを全国の中学・高校に展開しています。実在する企業、夢を成し遂げた先人、社会課題など現実社会をテーマに、生徒たちは答えのない学びに取り組み、チームで協働し、その成果を発表します。



プログラムは、生徒が使用するワークブック、動画教材、先生が使用する指導マニュアル、教員研修などで構成されています。学校の正規の授業の時間のなかで学期にわたり、または年間を通して導入され、学校の教員が指導します。2005年度にサービスを開始し、24年度は、全国500校、10万人の生徒が受講する見込みです

○クエストカップ全国大会

年度の終わりにクエストカップ全国大会が開催されます。生徒の一年間の学びの成果を社会に向けて発信します。23年度は6,000を超える作品がエントリーされました。



生徒たちが学びの成果を発表し、他校や企業、保護者や市民と学び合う全国大会。

QUEST CUP クエストカップ全国大会

毎年2月に開催するクエストカップ全国大会は、クエストエデュケーションの各プログラムを受講した生徒がエントリーできる全国大会です。全国から選ばれた代表チームが、企業人や有識者に向けて思いのプレゼンテーションを繰り広げ、1年間の学びの成果を社会に向けて発信します。自分たちの答えを見つけた生徒たちが、お互いに刺激を受けて切磋琢磨し合い、共に学び合う場です。

※オンラインとリアルハイブリッドでの開催実績あり。
※大会に出場できるプログラムについては運営にご確認ください。

○創出している価値

- ・生徒が生成的、創発的学びを体験することで主体性、創造性、レジリエンスを学ぶ。
- ・教員が予定調和や正解主義を脱し、生徒の可能性を見ることができるようになる。
- ・企業人が生徒の探求をサポートすることでファシリテーションやサーバントリーダーシップを学ぶ。

優秀賞・グリーン技術革新賞

新潟県の流域下水道から発生する未利用消化ガスを原料とした
バイオメタノール製造

三菱ガス化学株式会社、新潟県

発表者 三菱ガス化学株式会社 取締役 常務執行役員 赤瀬 英昭 様



取り組み概要

新潟県の流域下水道事業では、汚泥の消化処理の過程で発生する消化ガスを燃料や自家発電として有効活用しているが、消化ガスの発生量には季節変動があり発生量全体の約15%の余剰ガスが発生していた。この余剰分の消化ガス（以下「未利用消化ガス」）を原料に三菱ガス化学株式会社（以下「当社」）新潟工場で、国内で初めてバイオメタノールを製造することに成功した。

メタノールは、プラスチック、合成繊維、接着剤、塗料、農薬、医薬品など多種多様な最終製品に展開される現代生活に不可欠な素材である。現在はそのほとんどが天然ガスや石炭といった化石資源から製造されているが、CO²や廃棄物など未利用炭素資源を原料に製造出来ること、船舶燃料を始めクリーンでサステナブルな合成燃料としてエネルギー需要にも供されることから、次世代基幹物質として重要な役割を担うことが期待されている。当社はCO²や廃棄物からメタノールを介して素材やエネルギーを生み出すことを目指す環境循環型プラットフォーム"Carbopath™"の構築を掲げており、資源循環型社会構築への貢献を目指している(図1)。

本取り組みはCarbopath™構想の一つの形として、当社のメタノール触媒技術とプロセス技術を応用して、新潟県から供給される未利用消化ガスを価値化する新たなスキームでの社会実装である。化石資源依存の社会からカーボンニュートラル社会への移行を目指し、自治体と企業が協力して地元の様々な未利用資源を、次世代基幹物質であるメタノールとして再利用する画期的な取り組みである。

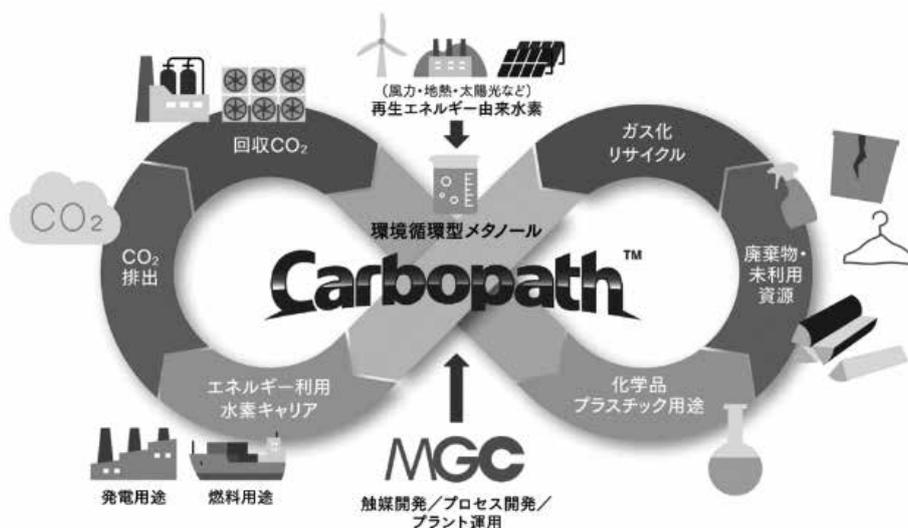


図1. Carbopath™による資源循環バリューチェーン

優秀賞・アップサイクル賞

「壊したビルから、クルマを造る。」 ～広がる、鉄スクラップ活用の可能性～



東京製鐵株式会社

発表者 東京製鐵株式会社 取締役社長 奈良 暢明 様



取り組み概要

鉄スクラップを主原料とする電炉鋼材から自動車をつくることができるのか。

我が国の「都市鉱山」、約14億tにのぼる豊富な鉄鋼蓄積を余すことなく国内で資源循環させるには、イノベーションが必要である。また、日本全体のCO²の約12%を排出する鉄鋼業界の脱炭素化は急務である。

製造時のCO²排出量が少ない電炉鋼材を、社会にどれだけ浸透させられるのか。鉄スクラップから鋼材を製造する電炉メーカーの国内最大手である当社は、鋼材の大きな需要分野である自動車向けに、電炉鋼材を素材として提供可能であると示すことが出来れば、象徴的な意味合いを持つと考えた。

当社は、鉄スクラップ発生の主要部分を占める建物解体に由来する鉄スクラップを、高度な品質管理技術をベースに、元々の鉄よりも高品位の鋼材へと生まれ変わらせることを「アップサイクル」と呼んで経営のテーマとしてきた。当社の知る範囲で、鉄スクラップからつくった鉄を主要な材料としてつくられた車はない。果たして、壊したビルから発生した鉄スクラップで車はつくれるのか。

2021年、当社は、神奈川県横浜市のベンチャー企業「株式会社FOMM」の協力のもと、同社の小型EV「FOMM ONE」に内蔵されている高炉鋼の部品（普通鋼の鋼板を加工したもの）を、どれだけ当社の電炉鋼材に置き換えることが出来るのか、というプロジェクトに着手した。

最終的に、今回のチャレンジでは、既存の高炉材を使用している鋼材のうち、約72%について鉄スクラップを「アップサイクル」した電炉材に置き換えることが可能であると証明することが出来た。完成車5台は、それぞれナンバープレートを取得して、各事業所に配備され、社会で「実走」している。



優秀賞・先人の知恵活用賞

水田からのメタン削減技術「中干し延長」を社会で実現する取り組み： 従来の農法を少しアップデートした導入し易い技術を確認し、ク レジット制度の方法論化で普及を推進



国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

発表者 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 理事 鈴木 孝子 様



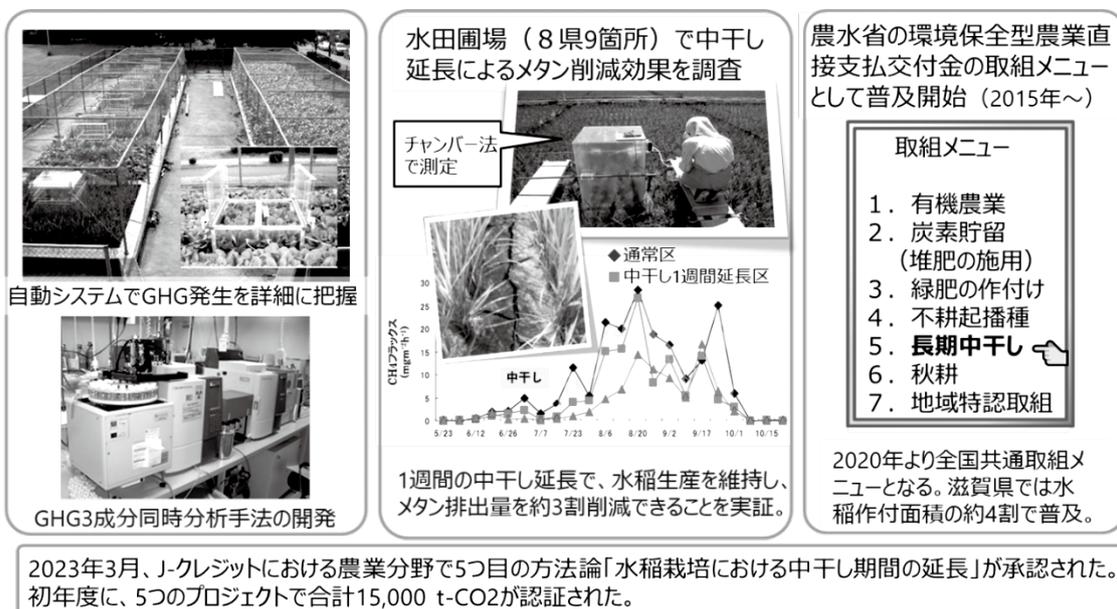
取り組み概要

2050年ネット・ゼロの達成に向け、農業分野からも温室効果ガス削減のための様々な技術の開発や取り組みが求められている。温室効果が二酸化炭素の約25倍のメタンは、日本ではその45%が稲作を行う水田から排出されている現状にある。

我々は、水田からのメタンを削減するために従来から水稻栽培で行われている“中干し”という水管理技術に注目した。この中干しを少しアップデート（長く）することで、土壌に酸素が十分行き渡り、再び水を入れた際にも還元状態になりにくく、結果として水田からのメタン排出量が削減できるというものである。新たな資材や道具が不要で、誰でも手軽に取り組みめるというのが重要なポイントである。

我々はまず、チャンバー法とガスクロマトグラフィーを組み合わせ、農地から発生する複数の温室効果ガス成分を高精度に測定する技術を確認し、多様な現地圃場での温室効果ガス測定を可能とする下地を作った。この技術を用いて、全国8県9か所の農業試験研究機関と中干し延長によるメタン削減効果の実証試験を行い、慣行と比較して中干しを1週間程度延長すると、栽培期間全体のメタン排出量が約30%削減するという結果を得た。

この成果を基に、「長期中干し」が農林水産省の環境保全型農業直接支払い交付金の地域特認取組メニュー（滋賀県）となり、2015年から地域展開が始まった。2020年には全国共通取組メニューになり全国への普及を後押ししている。2023年には、J-クレジット制度の方法論「水稻栽培における中干し期間の延長」として承認され、民間企業との連携で取り組みが広がりつつある。



優秀賞・医工連携促進賞

東北地域のものづくり技術と医学的インテリジェンスの融合による、ライフサイエンス機器創出拠点の形成



岩手県、東北ライフサイエンス・インストルメンツ・クラスター

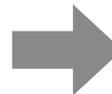
発表者 東北ライフサイエンス・インストルメンツ・クラスター 代表幹事 片野 圭二 様



取り組み概要

TOLICの地方創生ビジョン

大企業に依存せず、自分たちの技術に誇りを持ち
独創性のあるビジネスで世界にチャレンジする
岩手・東北のライフサイエンス産業の集積を目指す



地域課題の解決へ

雇用の創出
高付加価値化
産業の集積

1 今までの取り組み

岩手県では、自動車・半導体関連産業の集積が進んでおり、これらに続く第三の中核産業として、景気に左右されにくく、岩手県の強みである優れた基盤技術等の活用が見込める医療機器等関連産業の創出に取り組んできた。

その中で、2014年、地域の中小企業が中心となり、「東北地域を中心とした先端工学技術と医学的インテリジェンスを融合することで、ユニークなライフサイエンス機器の迅速な創出を可能にし得る、萌芽事業を創生する集積拠点を形成する」ことを目的とし、独自の医療機器の開発・事業化を目指す産学官金連携体「TOLIC（東北ライフサイエンス・インストルメンツ・クラスター）」が設立された。

TOLICの主な取り組みとして、①TOLIC会員が連携した開発・販売、②医療従事者による最新の治療や医療現場の課題と医療機器の事業化に向けた課題を共有する「カンファレンス」の開催、③地域の時代を担う人材の育成、④スタートアップ企業の創出、⑤開発製品の海外展開の5つがある。

これらの取り組みを民間主導で行うことにより、より付加価値の高い医療機器の企画、開発、販路開拓等を、スピード感を持って進めている。

2 今までの成果

以上の取組により、多様な技術シーズを持つTOLIC会員企業と先端医療技術の開発に挑む研究機関、医療機関等とのネットワークが形成されるとともに、医療現場のニーズ抽出や開発案件の課題を解決する体制が整備され、付加価値の高い医療機器の創出に繋がっている。

高付加価値の医療機器の開発により、会員企業の売上は2022年時点で66.8億円に達し、2020年と比較し50%伸びた。また、雇用者数も2022年時点で531人となり、2020年と比較して28%増加している。

3 新たな取り組み

10周年を迎えたTOLICは、11社のスタートアップ企業の創出に成功し、組織としての広がりを見せているところであるが、更なる成長に向けた構想の一環として、スタートアップ企業の経営支援を目的としたメンター企業及びスタートアップ企業を資金面でサポートする新ファンドを設立した。より一層の雇用確保、高付加価値製品の創出、産業集積を進めるため、取組を深化させている。

優秀賞・全員参加の地域づくり賞

Meets Community

～地域での困りごとをみんなで解決。お手伝いからコミュニティに、そしてまちづくりへ。～



ミーツ株式会社

発表者 ミーツ株式会社 代表取締役 成田 智哉 様



取り組み概要

ミーツ株式会社は北海道厚真町にてMaaS「まちづくり as a Service」として、「共助型困りごと解決プラットフォーム」の企画・開発・運営を実施している。

少子化・高齢化・過疎化・医療費の増加など様々な課題がある課題先進国である日本だからこそ、新たな取り組みを通じて課題「解決」先進国になり得る。ミーツ株式会社は人口4,300人の北海道厚真町で過疎地だからこそできる、ある種の「長屋家族」のような概念に通じるような、共助型困りごと解決プラットフォームの企画運営を行っている。若者が高齢者を支援することもあれば、逆に豊かな人生のストーリーや歴史を共有できるコミュニティがサービスを通じた出会いから発生し、多世代交流が促進される。

プラットフォームでは、アナログ情報として得られた住民の困りごとをデジタル化して、地域で解決可能なパートナーと呼ばれる住民にマッチングを促し、法律に基づいた支払い可能な金額をパートナーに支払う。地域住民であるパートナーの生活の「ついで」に、地域の困りごとを解決して新たな繋がりを育み、困りごとをきっかけとして「コミュニティ」を形成することができるサービスの実現を目指す。

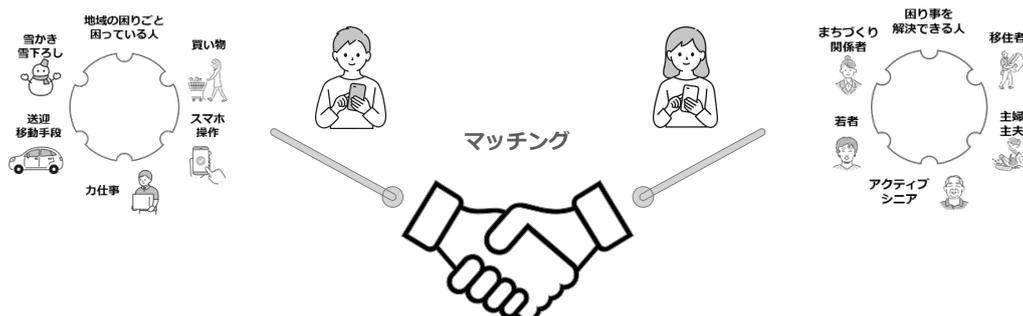
ミーツ事業のサービス概要

- LINEを活用したプラットフォームにより住民共助型の困りごとと解決をマッチングするサービス



共助型困りごと解決プラットフォーム「ミーツ」

- 困り事を「LINEアプリ」や「電話」で依頼（LINEなら高齢者も安心）
- 助けてくれる地域の人をマッチング
- ヒトとヒトが繋がることで新たなコミュニティ形成にも寄与
- 使用料は実費＋手数料（都度利用は¥1,000～¥2,000程）
- サブスク料金があるので価格の安心も提供（¥20,000/月）



奨励賞受賞団体一覧

取り組み名称	団体名称
青森駅周辺のまちづくりに関する新たな価値の創造について	東日本旅客鉄道株式会社、青森県、青森市、青森商工会議所、株式会社JR東日本青森商業開発、一般社団法人慈恵会、株式会社城ヶ倉観光
オープンイノベーションと官民共創DXによる“デジタル社会・かがわ”の形成	香川県
産学公連携で脱炭素社会を実現 ーゼロカーボンものづくりによるゼロカーボンまちづくり[ZET(ゼット)-(-)valley(バレー)]構想ー	京都府
データプラットフォームを活用した医療資源の見える化と共有によるサービス事業の創出	清水建設株式会社
世界農業遺産 大崎耕土の資源を守り活かす『大崎ジビエの郷づくり』	大崎市
サーキュラーエコノミーで目指す「環境と経済の両立」	埼玉県
奨学金返済支援サービス「奨学金バンク」	株式会社アクティブ アンド カンパニー
廃棄物発電と水素製造、水素利活用の組合せによる資源循環の実現	AREホールディングス株式会社、ジャパンウェイスト株式会社
大分県の水素サプライチェーン構築に向けた取組	大分県
日本音楽健康協会が挑む！ 地域と世代をつなぐ通いの場の課題解決	平尾勇、一般社団法人日本音楽健康協会、株式会社第一興商
SDGs探究型スタディツアー (尾瀬国立公園版プログラム@尾瀬・片品/尾瀬・檜枝岐)	株式会社プラチナマイスター、尾瀬SDGs探究ツーリズム委員会
マイナンバーカードを活用したデジタル地域通貨「天草のさりー」の普及	天草市、天草のさりー利用推進協議会
「つながりで誰もが健康になるまちづくり」 ～社会的処方を支える学術機関(一般財団法人医療文化経済グローバル研究所)の設立	養父市
炭削くんを起点とした地域・お客様の脱炭素支援 ～熊本から全国へ～	株式会社肥後銀行
OMIYA STREET PLANTS PROJECT (おおみやストリートプランツプロジェクト)	さいたま市、一般社団法人アーバンデザインセンター大宮
外国人採用による地方空港の人手不足の解消と訪日外国人客へのサービス向上へ	パーソルテンプスタッフ株式会社、西鉄エアサービス株式会社
FPoSが築く未来型デジタル連携社会	my FinTech株式会社
XR技術を活用した学びの場と地域課題解決の場づくり	株式会社イトーキ、株式会社ホロラボ
都市型農業における農福連携事業「福祉(学童等)向け直売サービス&体験イベント」	株式会社やさいと

奨励賞を含む全44件の取り組みは、当法人のホームページよりご覧いただけます。



特別講演

特別講演では、一般財団法人100万人のクラシックライブによる演奏会と、今年度より新設した「プラチナチャレンジング賞」受賞団体による取り組み発表を行いました。

当日の講演映像は、プラチナTV（YouTubeチャンネル）より、ご覧いただけます。



●一般財団法人100万人のクラシックライブによる演奏会

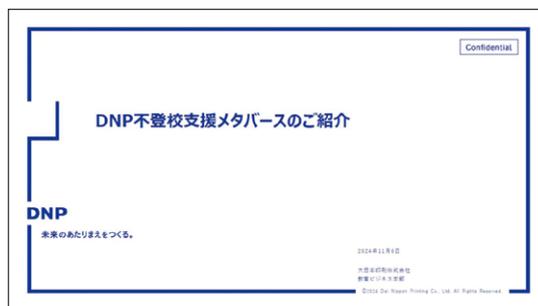


●プラチナチャレンジング賞受賞団体による取り組み発表

プラチナチャレンジング賞

団体名 大日本印刷株式会社、株式会社JMC、レノボ・ジャパン合同会社、PCテクノロジー株式会社、株式会社城南進学研究社

取り組み名 ～誰一人取り残さない、多様な学びの選択肢と第三の居場所～
「3Dメタバース」を活用した不登校支援



プラチナチャレンジング賞

団体名 江津市

取り組み名 波子駅リブランディング事業



審査委員長講評

プラチナ大賞審査委員長

武内 和彦



審査委員長を仰せつかっております武内でございます。本日、大賞・経済産業大臣賞の荣誉に輝いたのは、大分県の「デジタル革命～おんせん県おおいたのDXへの挑戦～」でございます。この具体的な中身について我々議論させていただいたわけですが、行政手続きのデジタル化という大変重要な課題に関して、強力なリーダーシップのもと、この事業を推進してこられたことに改めて敬意を表したいと思います。全国の都道府県で初めてアナログ規制の見直しに関わる一括条例を成立させました。また、3,343ある行政手続きを令和6年度末までに100%デジタル化するという計画を立案されました。

これからの時代に、要介護認定業務のデジタル化を含め、高齢化社会を支えるさまざまな重要な要素をこうした形でデジタル化していくのは大変重要であることは言うまでもございませんが、その全国の先駆けとなる試みをされたということで、大変高く評価されたものでございます。

大賞・総務大臣賞の株式会社フランウッド並びに津山市の「森林基幹道とフランウッドによる Profitable & Sustainableな森林業」ですが、評価のポイントは、まず特許技術による日本固有の高付加価値型木材の開発に成功されたことです。既に実用化し、フランウッドの商品力と高付加価値化を背景に、丸太を従来の2～3倍の価格で買い続けることを可能にしているとのこと、日本の林業における大きな課題に対して価格という面できちんと向かい合い、経済的に成り立つ仕組みにしていることは、非常に優れた業績ではないかと考えられます。また、津山市とフランウッドが官民共同で従来の10倍程度の森林収益を上げつつ、豊かで持続可能な森林を育てる新しいビジネスモデルを実証的に示しているということも大変高く評価されております。こうしたことを通して、これからの地方創生のあり方に大きく貢献する点が評価されたと思っております。

最後になりますが、今回、大変残念ながら、今回はあまり見られなかった時間を超過する発表が多少ございました。この点については、今後皆様方にご注意いただけると良いのではないかと思っております。このことは審査の結果にも多少反映しているということで、私の方からあえて申し上げさせていただきました。以上、私からの講評とさせていただきます。どうもありがとうございました。



映像は、プラチナ TV (YouTube チャンネル) より、ご覧いただけます。

閉会挨拶

一般社団法人プラチナ構想ネットワーク 副会長

岩沙 弘道



ただいまご紹介いただきましたプラチナ構想ネットワーク副会長の岩沙でございます。閉会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、皆様お忙しい中、長時間にわたり最終審査発表会表彰式にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。岩田和親経済産業副大臣ならびに総務省大臣官房・官房総括審議官情報通信担当の玉田康人様におかれましては、公務ご多忙の中、ご来臨の上、ご懇篤なる励ましのお言葉とプラチナ社会への期待を込めたご助言を賜りまして、誠にありがとうございました。そして、武内先生はじめとする審査員の皆様方には、今年もまたいずれ劣らぬ素晴らしい取り組みの中から、大賞を選び出すという、考えてみるとまことに酷なお願いを申し上げます。さぞかしや逡巡や躊躇の伴う辛い選択であられたかとお察し申し上げますが、大賞だけではなく、優秀賞につきましても熱心にご吟味、またご審議賜り、厚く御礼申し上げますと存じます。

審査の結果、栄えある大賞・総務大臣賞を受賞されました株式会社フランウッド「森林基幹道とフランウッドによるProfitable & Sustainableな森林業」、ならびに大賞・経済産業大臣賞を受賞されました大分県「デジタル革命～おんせん県おおいたのDXへの挑戦～」の皆様、誠におめでとうございました。この内容については、武内委員長から詳しくお話がございましたので省略させていただきますが、心から重ねてお祝いを申し上げますと存じます。

また、各部門賞はいずれも全国から選りすぐられた意欲的で先進的なチャレンジでございます。身近な問題からシーズを発見する着眼点がいずれも素晴らしく、そこからプロジェクトへと豊かなアイデアを生み出し、新たな価値創造につなげておられます。関係者の皆様の知恵と工夫と着眼点に、またさらに熱意に強い感銘を受けました。

新設のプラチナチャレンジ賞は、皆様の今回の受賞に向けてのご努力が本当に報われることになり、心からお喜び申し上げます。プレゼンテーションを拝聴しまして、改めて感じましたのは、今年新たに14の取り組みがプラチナ社会実現を目指す同志の輪に加わっていただけたことの意味の大きさでございます。本日第12回までの活動を通じて最終審査に残られた取り組みは100を超えており、多くの優れた取り組みが全国で推進されているわけですが、これはプラチナ構想ネットワークの何ものにも代えがたい宝であり、財産であります。この大いなる積み重ねを今後さらに生かして、次にどうつなげていくか。プラチナ大賞は回を追うごとにますます充実の度を加えてまいりましたが、いよいよ次の発展を目指す段階に来ていることを改めて強く感じた次第でございます。

そして、本日ご紹介いただいた取り組みは、発展段階で申しますと、新たな技術や制度、仕組みを導入する社会実験から、具体的な課題解決へと向かう社会実装の段階かと存じます。ビジネスでいえば、スタートアップの初期、いわゆるアーリー期にあたると思えます。私たちの社会は、これらのイノベティブな試みを次のステップ、グロース期へと育てていかなければなりません。それぞれの担い手を育て立ち上げに成功した後、公共的な活動であれば地域の理解と支持をさらに広げ、経済的事業では安定した収益基盤を築くなど、持続的な、そして発展的な成長を遂げていくことが求められます。たやすいことではありません。

しかし、その壁を乗り越えられるか否かが、プラチナ社会推進の原動力である新産業創出と地方創生の実現へもつながるといふ鍵になるかと思えます。

プラチナ構想ネットワークといたしましても、こうして全国で芽生えている先進的な取り組みを、志を同じくする方々が共有化し、幅広く横展開し、持続的成長に向かうことができるよう、人財育成や産業イニシアティブなどの主体的な活動とともに、しっかり今後をサポートしていきたいと考えている次第でございます。

最後になりますが、これまでご支援をいただきました皆様のご努力とご尽力に深く感謝いたしますとともに、より一層のご理解とご支援賜りたく、改めてお願い申し上げます。本日は長時間、誠にありがとうございました。

映像は、プラチナTV (YouTube チャンネル) より、ご覧いただけます。



これまでのあゆみ

これまでに、「大賞・総務大臣賞」には11の取り組みが、「大賞・経済産業大臣賞」には10の取り組みが受賞しており、これらを含む計134の取り組みに対して、「大賞・総務大臣賞」「大賞・経済産業大臣賞」「優秀賞」「審査委員特別賞」及び「プラチナ・イノベーション賞」を授与してまいりました。

● 第1回プラチナ大賞

最終審査発表会・表彰式：2013年7月25日

賞	受賞団体	タイトル
大賞・総務大臣賞	海士町	魅力ある学校づくり × 持続可能な島づくり ～島前高校魅力化プロジェクトの挑戦～



第1回 大賞・総務大臣賞 海士町

● 第2回プラチナ大賞

最終審査発表会・表彰式：2014年7月22日

賞	受賞団体	タイトル
大賞・総務大臣賞	ヤマトホールディングス株式会社	地域に密着したヤマト流CSV「まごころ宅急便」
大賞・経済産業大臣賞	北九州市	都市間連携を通じたアジアのグリーンシティ創造



第2回 大賞・総務大臣賞 ヤマトホールディングス株式会社



第2回 大賞・経済産業大臣賞 北九州市

● 第3回プラチナ大賞

最終審査発表会・表彰式：2015年10月23日

賞	受賞団体	タイトル
大賞・総務大臣賞	珠洲市	「能登半島最先端の過疎地域イノベーション」 ～真の大学連携が過疎地を変える！～
大賞・経済産業大臣賞	積水ハウス株式会社	「5本の樹」で命あふれる笑顔のまちを



第3回 大賞・総務大臣賞 珠洲市



第3回 大賞・経済産業大臣賞 積水ハウス株式会社

●第4回プラチナ大賞

最終審査発表会・表彰式：2016年10月26日

賞	受賞団体	タイトル
大賞・総務大臣賞	雲南市	幸雲南塾(大人版)～若者チャレンジによる持続可能なまちづくりへの挑戦～
大賞・経済産業大臣賞	コマツ	地産地消型バイオマス利活用の推進と地方創生



第4回 大賞・総務大臣賞 雲南市



第4回 大賞・経済産業大臣賞 コマツ

●第5回プラチナ大賞

最終審査発表会・表彰式：2017年10月26日

賞	受賞団体	タイトル
大賞・総務大臣賞	見附市	「コンパクトシティの形成」～健やかで幸せに暮らせるまちづくり～
大賞・経済産業大臣賞	株式会社伊藤園	茶産地の育成を支援する「茶産地育成事業（新産地事業）」～遊休農地を茶の産地に～



第5回 大賞・総務大臣賞 見附市



第5回 大賞・経済産業大臣賞 株式会社伊藤園

●第6回プラチナ大賞

最終審査発表会・表彰式：2018年10月25日

賞	受賞団体	タイトル
大賞・総務大臣賞	養父市	養父市の新たな挑戦！ 国家戦略特区を活用した新たな自家用有償旅客等運送事業「やぶくる」
大賞・経済産業大臣賞	株式会社シェルター	「木造都市づくり」への挑戦 - 都市（まち）に森をつくる -



第6回 大賞・総務大臣賞 養父市



第6回 大賞・経済産業大臣賞 株式会社シェルター

● 第7回プラチナ大賞

最終審査発表会・表彰式：2019年11月5日

賞	受賞団体	タイトル
大賞・総務大臣賞	弘前大学大学院医学研究科 特任教授 中路重之氏 青森県、弘前市	健康ビッグデータで短命県返上と地域経済活性化の同時実現をめざす 産学官民一体型青森健康イノベーション創出プロジェクト
大賞・経済産業大臣賞	株式会社リクルート 有田市	株式会社リクルートと和歌山県有田市との2年間の取組 (Cheers Agri Project IN ARIDA)



第7回 大賞・総務大臣賞 弘前大学、青森県、弘前市



第7回 大賞・経済産業大臣賞 株式会社リクルート、有田市

● 第8回プラチナ大賞

最終審査発表会・表彰式：2020年10月22日

賞	受賞団体	タイトル
大賞・総務大臣賞	神奈川県	新型コロナウイルス対策に係る「LINE コロナお知らせシステム」「新型コロナ対策パーソナルサポート（行政）」「感染防止対策取組書」等を組み合わせた仕組について
大賞・経済産業大臣賞	Global Mobility Service 株 関根秀昭氏 (プラチナ構想ネットワーク特別会員)	日本発 世界の貧困層・低所得層 17億人を救う金融包摂型 FinTech サービス



第8回 大賞・総務大臣賞 神奈川県



第8回 大賞・経済産業大臣賞 Global Mobility Service株式会社
関根秀昭氏(プラチナ構想ネットワーク特別会員)

● 第9回プラチナ大賞

最終審査発表会・表彰式：2021年10月21日

賞	受賞団体	タイトル
大賞・総務大臣賞	北海道大学 COI 拠点、 岩見沢市	日本で一番母子にやさしい、市民が主役のまちづくり：日本初の健康経営都市岩見沢市の挑戦～新公共・新産業エコシステムを構築し、更なる持続的な進化、そして他地域展開～
大賞・経済産業大臣賞	三井住友信託銀行株式会社	森林信託事業



第9回 大賞・総務大臣賞 北海道大学 COI 拠点、岩見沢市



第9回 大賞・経済産業大臣賞 三井住友信託銀行株式会社

●第10回プラチナ大賞

最終審査発表会・表彰式：2022年10月24日

賞	受賞団体	タイトル
大賞・総務大臣賞	徳島県、高知県、阿佐海岸鉄道株式会社	道路と鉄路の「二刀流」DMV～世界初に乗りに行こう！～
大賞・経済産業大臣賞	岩手県、一関市（岩手県）、一関工業高等専門学校	すり足・ふらつきに着目した認知症予防・早期発見デバイス「D-walk」の開発について



第10回 大賞・総務大臣賞 徳島県、高知県、阿佐海岸鉄道株式会社



第10回 大賞・経済産業大臣賞 岩手県、一関市（岩手県）、一関工業高等専門学校

●第11回プラチナ大賞

最終審査発表会・表彰式：2023年11月6日

賞	受賞団体	タイトル
大賞・総務大臣賞	戸田建設株式会社、常総市（茨城県）	官民連携による地域創生まちづくり「アグリサイエンスバレー常総」
大賞・経済産業大臣賞	京都府	「京都ゼロカーボン・フレームワーク」全国初の金利優遇スキームで中小企業の脱炭素化を支援～環境・経済・社会の好循環を創出する～



第11回 大賞・総務大臣賞 戸田建設株式会社、常総市（茨城県）



第11回 大賞・経済産業大臣賞 京都府

第12回プラチナ大賞 主なメディアの掲載

テレビ

- フジテレビ『FNN Live News a』（2024年11月6日）
- KAB熊本朝日放送『くまもと Live touch』（2024年11月7日）

新聞

- 時事通信社（2024年11月6日）
- 岩手日報社（2024年11月7日）
- 大分合同新聞社（2024年11月7日）
- 信濃毎日新聞（2024年11月7日）
- 産業新聞社（2024年11月8日）
- 山陰中央新報社（2024年11月20日）
- 通信文化新報（2024年12月2日）

※掲載日・掲載社名五十音順

編集後記

今年度も全国から数多くの素晴らしい取り組みをご応募いただきました。

また、「プラチナチャレンジング賞」を新設し、きわめて先進的・革新的なアイデア、技術及び仕組みをもって「プラチナ社会」を加速させることが期待できる取り組みが選定されました。

改めまして「第12回プラチナ大賞」の運営にご協力いただいた皆様並びにご応募いただいた皆様に、事務局一同厚く御礼申し上げます。

来年度のプラチナ大賞がこれまで以上に素晴らしい事業となるよう、より一層努力いたしますので、引き続き皆様のご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、当日の会場の模様は、当法人のYouTubeチャンネル「プラチナTV」にてアーカイブ配信を行っておりますので、ぜひご覧ください。

第12回プラチナ大賞 報告書

2025年1月発行

編著 プラチナ大賞運営委員会事務局
(一般社団法人プラチナ構想ネットワーク事務局)



プラチナ
構想ネットワーク

編集・発行

プラチナ大賞運営委員会事務局
(一般社団法人プラチナ構想ネットワーク事務局)

〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3 東急キャピトルタワー9階
TEL. 03-6858-3546 MAIL. pt-taishou@platinum-network.jp